

状の滝を越えると、分岐になる。水量は左俣が多い。

左俣を登って20分程で4 mの直瀑。小さなホールド、スタンスをひろって、ようやく直登。ここからすぐ15 m程の滝に出る。ホールド、スタンスは充分なように思えるが、かなりの水が流れていて、潜水クライミングになりそう。落ち口をトラバースして、右側を強引に登るが、ここも水の流れが激しくて苦勞する。玲子さんもトライしたいというので、ザイルをたらず。登りついた所はカレ沢が合流したテラス状の所で、この上は難なく登れる。

この滝を境に沢は、ナメが連続して出てくる。標高1100m位の所でひと息入れてまた登る。まもなく、また二俣。水量はほぼ同じ。地図からすると左側が本流と思われるので、こちらを選ぶ。

吾妻に大滝沢というナメのきれいな沢があるが、そのミニ版のような感じの沢登りを楽しんでいると、やがて水も濁れ、ブッシュがかぶさってくる。

右側に小さな尾根があったので、そこに取り付くが、まもなく尾根筋は消え、平らな笹やぶになってしまう。コンパスと笹の根曲がりをもたよりにやぶをこぐこと1時間。ちょうど10時に道に出る。

(記・)

[タイム] 甲子温泉(6:25)→白水沢
出合(6:35)→沢終了(9:00)→林道(10:00)

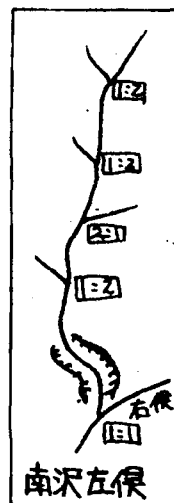
右
南沢左俣 左沢

1983年7月24日

L

南沢の二俣までの記録は既に報告済みである(本誌No 6参照)ので、それ以後の部分についてのみ報告する。

連続する滝の殆どを直登で突破して8:30二俣到着。この先何が



あるかと期待したのだが、二俣から始まる両側のガレを過ぎると、沢そのものが藪の中となる。沢の大きい方へと進み、旭岳と甲子山の最低鞍部に出た。以上何もな
い沢だった。 (記・)

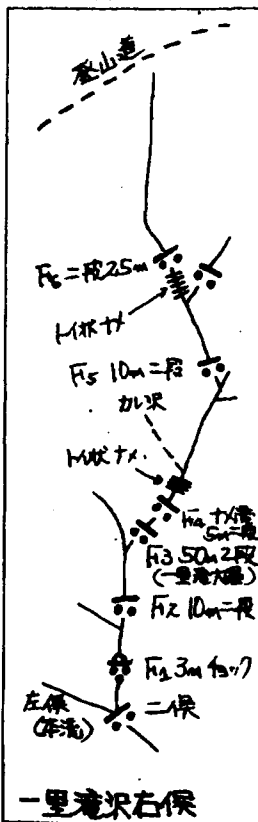
[タイム] 南沢出合(6:45)→二俣(8:30)→登山道(9:10)

一里滝沢右俣

1983年7月24日

I

甲子温泉の手前に、左に入る林道がある。現在は所々崩壊しており、入口に有刺鉄線が張ってある。この林道を登っていくと、最初に見えてくるのが南沢で、一里滝出合はその100m程上流になるが、林道からは尾根にかくれて見えない。



一滝沢は、出合より滝をかけて始まる。以下二俣までの記録は左俣を進行したパーティのものをみていただくとして、ここでは二俣より先の記録のみとする。

9:45二俣に着く。ひと息いれて10:00右俣の進行にかかる。すぐに大岩が重なり、滝を形成し、F1 3mとなる。次いで右岸より小沢が入り、F2 10m 2段滝が現われる。下段は右岸を登って落口に立つ。上段も直登可能と思われたが、濡れにくいので、左岸の水のかからない所を小さく捲いて越える。右俣に入って15分、大きな二俣となり、右俣には約50mの2段の大瀑が現われる。この滝を指して一里滝大瀑とよんでいるらしい。上部にあるF4と一緒に右岸を捲いて越える。

トイ状のナメを過ぎ、右岸からカレ沢、左岸から小沢を合わせると、二俣となる。左岸の方が水量も多いので、そちらにルートをとる。

すぐに2段のF5。一段目は右岸壁を登り、2段目は水しぶきをあびながら滝右を直登する。次にトイ状となったガメを越えると、もう地図上では読めない二俣となる。右俣はすぐ上に滝をかけているが、左俣をつめることに決める。

左俣にもすぐに滝が出てきた。15mくらいと思って滝を登りはじめたが、木村さんが不安だということなので、ザイルを出して確保に入ったら、たっぷり25mもあった。